

ひと

午前6時。「おはよう」「後は良か、汽車に乗り遅れるよ」「いってらっしゃい」「おっ、今日は試合ね?」。JR松橋駅前の駐輪場で明るい声が響く。声の主は、橘三男さん（不知火町御領）、河野節生さん（不知火町御領）、藏原絹枝さん（不知火町御領）、星田ユウ子さん（不知火町高良）の4人。土日を除いて、雨の日も雪の日も、毎朝かかさず自転車などの整理や交通指導をしています。



左から星田さん、藏原さん、橘さん、河野さん。「あいさつ、声掛け運動は防犯にもつながります」と話す河野さんは、不知火町の交通指導員でもあります。荷物で両手がふさがった学生に自転車を出してあげたり、「お尻が濡れないように」と濡れたサドルをふいたり。その気配りに頭が下がります。



自転車を互い違いに隙間なく止める橘さん。狭いスペースには整理して置かないと、とても入りません



自転車などが整然と置かれた駐輪場。「もっと駐輪場が広ければいいんですが」と4人は声をそろえます



通学路でもある駅前。7時15分から30分にかけて、続々と登校する小学生に交通指導をする藏原さん

気持ちのいい朝の風景を、いつもありがとう。

同駅駐輪場は平成7年の完成当初から自転車や単車が乱雑に置かれ、隣接する道路の中央線付近まであふれて交通の障害になると、旧不知火町の区長会や町政座談会で、たびたび取り上げられていました。

平成8年3月、「自分たちの手で何とかしよう」と当時の御領1区区長・林田岩衛さん、御領3区区長・池田正さん、橘さんの3人がボランティアで朝の駐輪場整理をスタート。その後、松永正さん（不知火町御領）、河野さん、藏原さんが加わり、昨年12月から松永さんに代わって星田さんが加わりました。い

ろいろな利用者を見てきたそうです。「ある日、中年の男性に通路に置かないよう注意すると、『それなら、ここは通路だと書いておきなさい』と言われたことがありました。世の中には秩序というものがあるのに。片や同じことを言っても『はい』と素直に聞く学生もいます」と橘さん。

また、藏原さんは「毎朝、声を掛けても黙っていた子が、1カ月後にあいさつしてくれた時は、本当にうれしかった。子どもは素直だから、大人から声を掛ければちゃんと応えてくれるんですよ。毎日の出来事を話してくれる子もいるし、『卒

業しました』と言って花束をくれた高校生もいました。（駐輪場整理は）人との触れ合いになるんですよ」と話します。「本当によくやっていただいており、感心します。橘さんたちのおかげで利用者が自ら自転車を詰めて置くようになりました」と同駅長。

駐輪場を利用する私たちが、モラルを持って後から来る利用者のために整理して置く。一人一人が、そんな思いやりの心を持つことで、橘さんたちのボランティアが報われるのではないのでしょうか。

宇城市
友達の輪派遣職員の
東京見聞録

東京に赴任して早3カ月。スクランブル交差点と満員電車の通勤にもようやく慣れ、ホームシックも世界ブランドの「球磨焼酎」で日々解消されつつある今日このごろです。

今は、銀座熊本館3階にある県東京事務所を拠点に、情報の収集から訪問、そして工場適地への誘致といった「企業誘致」という仕事をしています。

宇城市では昨年10月、企業誘致による雇用創出と既存企業の

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県東京事務所企業誘致課の内富裕登さんです。



雇用拡大を目的に雇用対策課が設置されました。宇城市のためにいざ江戸へ…と意気込んで来たものの、想像以上に大きな理想と現実のギャップに、この仕事の厳しさ・難しさを実感しているところなんです。果たして、この東京で宇城市のために何が出来るのかと考えたら：正直、プレッシャーに押しつぶされそうになるときもあります。それでも、今はこの東京で一回りでも二回りでも大きくなって帰ってやろうという気持ちをバネに頑張っています。

そういえば、最近、毎週末1日だけ、事務所1階のアンテナショップでお手伝いを始めました。きっかけは、東京・銀座での売れ筋商品のリサーチと経営・接客を学びたいという思いからです。仕事はボランティアですが、たまに賞味期限切れの

食材をいただきます。これが仕事をしていた一番のメリットかもしれません（笑）。一人暮らしの家計にとってはかなり嬉しいです。

また今年は、宇城市で地元食材を使った新しい商品開発プロジェクトが動き出しました。各部署と連携して、東京での経験と人脈を生かし、「宇城市」を全国へと、この手でメジャーデビューさせてみたいですね。



ALTとして
三角中
などで
活躍中！

ドン・ダザ先生の

日本づれ日記

「日本での三大思い出
(今のところ)」

裸祭り（岡山県）

週末に佐賀の友達一行と一緒に、高速道路を飛ばして岡山に行きました。そこで僕たちは、ほかの外国人たちと一緒に裸祭りに参加しました。あの時、初めてふんどしを締めたことと、宝木をめぐって何百人もの男たちがぶつかり合う姿は決して忘れられません。

藤崎八幡宮祭り（熊本県）

宮崎の友達と朝の5時に起床して、三角町から車を運転して熊本市まで行きました。そこで人々がラッパを大きく吹き鳴らしたり、太鼓をたたいたりしながら、馬と一緒にパレードするのを見物しました。馬刺しでない姿の馬を見ることができて良かったです。面白い親切な人々がたくさんいて、今年もその時期には祭りへ行きたいと思っています。

長崎ランタン祭り（長崎市）

お祭りの間、雨がたくさん降りましたが、街中でいろいろなショーを見たり、お寺や飾りつけなどを見物して楽しい旅行でした。特にアクロバットのパフォーマンスをするグループはエキサイティングで印象的でした。